

『都市の経済学 小テスト No.1』

学籍番号：

、氏名：

以下の各問に答えよ。選択肢となっているものには、正しいと考えるものに丸印をつけること。空欄には適切な語句、または数値を記入すること。(全問1点×17問=17点)

1. 比較優位について

- ✓ 授業で学んだ交易の利益について復習してみよう。まず、車の生産が得意だが石油のあまり取れない A 国と、車の生産は不得意だが石油の埋蔵量は豊富な B 国があるとす。それぞれの国における労働力を 1 単位ずつ利用した場合の、車と石油の生産量は表 1 の通りである。

表 1. 労働力 1 単位あたりの生産量

	A国	B国
車	100台	10台
石油	2キロリットル	200キロリットル

- ✓ それぞれの国において、車 1 台を生産するためにかかる費用は、石油で計った機会費用で計算するといくらになるか？
A 国： 0.02 キロリットル 、 B 国： 20 キロリットル
- ✓ それぞれの国において、石油 1 キロリットルを生産するためにかかる費用は、車で計った機会費用で計算するといくらになるか？
A 国： 50 台 、 B 国： 0.05 台
- ✓ 車の生産に比較優位があるのはどちらの国か？ (A 国、 B 国、どちらでもない)
- ✓ 石油の生産に比較優位があるのはどちらの国か？ (A 国、 B 国、どちらでもない)

2. 交易の利益について

- ✓ 上記のそれぞれの国にある総労働力が10単位あるとする。はじめ、A国で車と石油の生産に配分される労働力が6:4、B国で車と石油の生産に配分される労働力が3:7であった。それぞれの国における生産量を表2に示す。

表2.各国の生産量（労働力10単位を全て生産に利用）

	A国	B国
車	600台	30台
石油	8キロリットル	1400キロリットル

- ✓ ここで、A国の労働力の配分を8:2に変更し、B国の労働力の配分を1:9に変更した。このとき、各国の生産量は当然変化する。変化後の生産量について以下の表の空欄を埋めよ。

表3.労働力の配分を変化させた時の生産量

	A国	B国
車	800台	10台
石油	4キロリットル	1800キロリットル

- ✓ 労働力を変化させた後、お互いに交易を行うこととなった。交換比率は車1台に対して、石油2キロリットルとする。なお、A国は労働力を変化させることで増産した全ての車をB国との交易に利用する。この条件で交易を行った場合、A国とB国における最終的な車と石油の保有量はいくらか。以下の表の空欄を埋めよ。ただし、交易の際に輸送費などのコストはかからないとする。

表4.最終的な車と石油の保有量

	A国	B国
車	600台	210台
石油	404キロリットル	1400キロリットル

- ✓ この結果、比較優位が（ある、無い）生産財の生産を増加させて交易を行うと、両国における最終的な財の保有量は（増加する、減少する、変化しない）。この事実は、両国が利用する総労働力は（増加する、減少する、変化しない）ことから、交易を行うことの利点、合理性が説明される。